

## ごあいさつ



初夏の候、会員・お取引先の皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

平素より当金庫に対して格別のお引き立てを賜り、厚くお礼申し上げます。

第69期(平成30年度)のディスクロージャー誌が出来上がりましたので、ご高覧いただき引き続きご愛顧を賜ります様お願い申し上げます。

さて、我が国の経済は、平成25年にアベノミクスが始まり、昨年前半まで総じて緩やかな回復基調が続いていましたが、後半に入ると北海道胆振東部地震等大規模な自然災害が相次いだことから一時的にマイナス成長に転じました。

その後、米中貿易摩擦の激化を受け市場は波乱含みとなりましたが、大企業を中心とした設備投資や個人消費は底堅く推移しています。

しかし、我が国の人口減少や少子高齢化が加速する中で、国内消費にこれまで以上の盛り上がりを期待することは難しいと思われまます。

海外に目を向けても欧州経済の減速、英国のEU離脱問題の帰趨、さらには米中間の貿易摩擦の激化等による海外経済の悪化と、それに伴う我が国の輸出や企業収益への悪影響が懸念されるなど、経済の先行きについては不安材料が後を絶ちません。

北海道においては、大都市圏である札幌への一極集中が進み、他の地域では人口流出や高齢化が進んでおり、所得格差の拡大や中心市街地・地場産業の衰退を余儀なくされています。

地域社会の疲弊に伴い、新規開業の停滞や人手不足、経営者の高齢化等に伴う休廃業の増加、産業の空洞化等構造的な問題が進展している他、個人消費の低迷による販売不振等により中小企業は引き続き厳しい経営環境におかれており、特に当金庫の取引先である小規模・零細企業の減少はどんどん進んでいます。

日本銀行による歴史的に類をみない極めて緩和的な金融環境が続いていますが、経済の先行き懸念などから物価上昇圧力となる個人消費や設備投資は力強さを欠いており、消費者物価上昇率2%の達成は困難であり、当面の間マイナス金利政策の解除は期待できません。

当金庫としましては、協同組織金融機関として「共通価値の創造」や「金融仲介機能のベンチマーク」を意識した経営戦略の策定に加えて、「事業性評価」に基づく融資の推進や付加価値の高い課題解決策の提案等地域経済を活性化させ、地域社会を持続可能なものにしていくことが当金庫に求められる大きな役割と考え努力していく所存です。

平成30年度の業績につきましては、預金は期末残高1,258億円と前期比10億円、0.84%増加しました。

貸出金は、期末残高635億円と前期比29億円、4.91%増加しました。

収支につきましては、経常収益1,873百万円と前期比91百万円増加しましたが、ランクダウンによる信用コストの大幅な増加により経常費用1,579百万円と前期比262百万円増加し、経常利益293百万円、当期純利益168百万円の計上となりました。

今期の自己資本比率は、10.04%となり前期比0.08%上昇しています。

金融再生法開示債権は1,069百万円と前期比156百万円増加し、不良債権比率1.67%と前期比0.17%上昇しました。

大変厳しい経営環境の中でこのような決算ができましたことは、ひとえに会員・お取引先の皆様のご支援・ご協力の賜物であると深く感謝申し上げます。

令和元年度は新長期経営計画「『きたしん共創力』発揮3か年計画」～地域と共に未来へ歩み続ける信用金庫を目指して～の2年目であり、(1)支援力・営業力の深化×進化(2)経営力・内部態勢の深化×進化(3)人材力・組織力の深化×進化(4)業界総合力の深化×進化を事業の方針として、地元に必要なとされ、信頼される信金づくりを目指して努力してまいります。

今後とも、なお一層のご指導・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和元年7月

北空知信用金庫

理事長 廣上 光義